

喜界町



議会だより

175号

令和元年5月1日発行



写真：栽培面積が広がる園芸作物、実がつきはじめました

主
な
内
容

一般会計当初予算	2
予算審査特別委員会報告	4
一般質問に3名が登壇	9
鹿児島県日置市現地調査研修報告	12
条例等案件報告・諸般の報告	15
読者の声・編集後記	16



発行／喜界町議会 編集／議会広報委員会

〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地

TEL:0997(65)1115・FAX兼用

平成31年第1回定例会は、3月4日から3月15日までの12日間開催されました。初日は、施政方針並びに平成31年度当初予算について説明があり、平成30年度一般会計補正予算・特別会計補正予算等を可決し、平成31年度一般会計予算・特別会計予算8件は予算審査特別委員会に付託し、条例等10件は、各常任委員会へ付託しました。14日に3名の議員が登壇し、一般質問

平成31年度一般会計当初予算

◆ 一般会計当初予算の主なもの ◆

単位：千円

担当課	事業名	内容説明	予算額
総務課	庁舎管理費	屋外喫煙所用ユニットハウス購入費	2,000
	自治振興費	集落活性化助成金	2,000
企画観光課	条件不利性改善事業	航路・航空路運賃軽減事業負担金	27,958
	条件不利性改善事業	農林水産物輸送コスト支援事業助成金	30,759
	地方創生関連事業	喜界馬購入費	100
	地方創生関連事業	「あるもの再利用」による移住・定住促進事業(サンゴ研究所へ)	1,000
	ジオパーク推進事業	ガイド育成研修委託、看板監修委託、パンフレット監修委託	18,000
建設課	地方改善施設整備事業	道路改良舗装工事(中里)	20,000
	水産業振興費	喜界町水産業活性化事業補助金	3,000
	道路新設改良費	道路改良舗装工事(中里)	16,000
	道路新設改良費	道路改良用地購入費(中里)	2,464
	道路新設改良費	道路改良補償費(中里)	32,536
	港湾整備費	喜界島港改修工事等(浦原)	283,000
	地域住宅交付金事業費	湾宮戸住宅他	111,300
保健福祉課	高齢者福祉費	「食」の自立支援事業(配食サービス)委託料	5,640

平成30年度補正予算

単位：千円

科目	事業名	金額
総務費	奄美群島成長戦略推進交付金事業(休養村他避難指定場所整備)	76,823
	庁舎修繕費	70,283
民生費	保育所建設用地購入費	18,000
衛生費	台風被害廃棄物処理委託料	54,100
	クリーンセンター台風24号災害修繕料	5,000
農林水産業費	簡易水道事業特別会計繰出金	32,640
	農業集落排水事業特別会計繰出金	2,186
	被災農業者向け経営体育成支援事業	67,547
	強い農業づくり交付金事業	301,895

がありました。15日の最終本会議では、予算審査特別委員会、各常任委員会の各委員長から報告を受け、平成31年度一般会計予算・特別会計予算8件、条例等10件を可決しました。また、副町長の選任については、全会一致で同意しました。

67億5,360万円 前年比 2億5,710万円(3.9%)増額

単位：千円

担当課	事業名	内容説明	予算額
保健福祉課	高齢者福祉費	長寿祝金	3,960
	こども医療費助成事業費	こども医療費助成金	8,160
住民課	海岸漂着物地域対策推進費	海岸漂着物処理委託料	6,975
農業振興課	農業委員会事務局費	遊休農地解消対策事業助成金	700
	農業振興費	農業共済事業運営負担金	15,532
	農業振興費	農業後継者育成事業交付金	4,600
	農地費	震災対策農業水利施設整備事業(島中)	4,000
	農地費	県営畑地帯総合整備(担い手育成型)事業負担金(荒木、中里地区)	50,266
	農業次世代人材投資事業	農業次世代人材投資事業補助金	13,500
教育委員会 総務課	事務局費	スクールバス運行委託料(幼稚園、小中学校)	43,126
	事務局費	入学祝い金	3,660
	地方創生関連事業費	町中高生海外研修派遣事業費	324
	地方創生関連事業費	国公立大学進学応援事業費	1,128
	給食施設費	学校給食調理等業務委託料	28,947
教育委員会 生涯学習課	保健体育総務費	スポーツ合宿誘致促進事業補助金	800

(繰越明許費)

単位：千円

科目	事業名	金額
農林水産業費	畑地帯総合整備事業喜界中部地区委託料	7,500
	荒木漁港水産基盤機能保全事業	13,500
商工費	ゴルフ場クラブハウス修繕事業	9,000
土木費	前満盛線改良事業(空港前)	43,666
	喜界島港港湾整備事業(浦原)	96,360
教育費	あゆみ幼稚園災害復旧工事	10,430
	埋蔵文化財発掘調査事業	13,600
災害復旧費	農地・農業用施設復旧費	119,862

○ ○ ○ 予算審査特別委員会報告 ○ ○ ○



委員長
上間 一寛 議員

● 議案第1号

平成31年度喜界町一般会計予算

平成31年度予算案は、厳しい財政状況であるとの認識のもと、財源の確保及び経費の削減に努め、中長期的視野に立ち、生産性向上、働き方改革などにより、多様化する住民ニーズに対応するとともに、本町の地域特性や可能性を生かした行財政運営に取り組みとしております。

予算編成に当たっては、国、県の動向を注視し、町民の皆様への行政に対する御意見を真摯に受けとめ、真に必要な事業や新たな行政需要に対し、最少の経費で最大の効果が得られるよう、重点的かつ効率的な配分に傾注したとしております。

当委員会は、審査に際し、町長の施政方針や町民のニーズに的確に対応しているか、また、財源の確保、健全財政の堅持に努力されているかの視点に立って、執行部

の出席を求め、また、審査を深めるため資料の提出を求め、慎重に審査を行いました。

歳入歳出予算の総額はそれぞれ、前年度に比べ4.0%、2億5,710万円の増額となっております。

〔歳入予算の主なものについて〕

(町税)

計上額は5億4,911万5,000円で、前年度当初予算と比較して2.3%、1,157万1,000円の増額となっております。増額の主な理由といたしまして、町民税1,238万8,000円の増は、個人所得割の増とサトウキビの増収による増、固定資産税49万円の増は償却資産によるものであります。

(たばこ税)

総額6,053万2,000円前年度に比べ、158万3,000円の減となっております。

(地方交付税)

地方自治体間の財源の不均衡を調整し、交付される普通交付税は27億6,000万円、特殊な事情

を考慮して交付される特別交付金は1億8,000万円、合計29億4,000万円は前年度比1億円の増となっており、歳入における構成比は43.5%となっております。

(国庫支出金)

特定の事務事業の財源に充てるための国の支出金で、本年度は7億7,814万9,000円で、前年度当初予算と比較して6.1%、5,065万5,000円の減額となっております。支出金の主なものは、子供のための教育・保育給付費負担金6,982万7,000円、民生費の児童福祉費に充当され、障害者自立支援給付費負担金1億2,977万1,000円

は、民生費の保健福祉費に充当、地方改善施設整備事業費補助金1,000万円は、民生費の社会福祉費に充当、一般廃棄物焼却施設整備交付金8,799万2,000円は、衛生費の清掃費に充当、社会資本整備総合交付金は、土木費の道路橋梁費に5,250万円、港湾費に2億5,015万円、住宅費に4,660万円充当される国からの支出金であります。

(県支出金)

国庫支出金同様、特定の事務事業の財源に充てるため県から交付されるもので、本年度は5億8,384万8,000円で、前年度当初予算と比較して7.4%、4,659万4,000円の減となっております。支出金の主なものは、基幹水利施設管理事業費補助金2,160万円、農業次世代人材投資事業補助金1,350万円、農業基盤整備促進事業補助金2,640万円、奄美群島移動規制害虫特別防除事業委託金4,114万6,000円は、いずれも農林水産業費の農業費に充当されま

す。農林水産物輸送コスト支援事業交付金2,614万2,000円は、総務費の総務管理費に充当され、埋蔵文化財発掘調査委託金1億6,911万2,000円は、教育費の社会教育費に充当される県支出金であります。

(繰入金)

財源補填のため財政調整基金より2億8,160万8,000円は、塵芥処理施設費及び道路維持費等へ公共施設整備基金より6,550万円を繰り入れ、小中高生入学祝い金へふるさと寄附基金よ

り366万円をそれぞれ繰り入れるものであります。

〔町債〕

町の事業の財源に充てるための長期の借入金で、主なものとして、焼却施設整備事業6億3,720万円は過疎対策事業債を、農地整備事業費2,510万円と道路整備事業費1,500万円は辺地対策事業債を、港湾整備事業費3,280万円は過疎対策事業債を、住宅建設整備事業費6,210万円は公営住宅建設事業債を充てるものであり、地方債の2019年度の計上額は10億8,820万円、前年度当初予算と比較して21.2%、1億9,000万円の増額となっております。

〔歳出予算の主なもの(人件費)〕

〔議会議費〕

人件費等経常経費が主であります。総額8,973万4,000円は、前年度比1.6%、144万9,000円の増となっております。増の要因としては各年度実施しております所管事務調査費の旅費であります。構成比は1.3%となっております。

〔総務費〕

職員給与等経常経費1億3,449万2,000円が主なもの

で、庁舎維持管理費2,239万4,000円、電算管理費8,929万9,000円、公会計制度定着指導助言葉務委託費225万5,000円、職員研修費398万7,000円など、総額8億8,967万4,000円で、前年度比12.3%、9,745万9,000円の増額となり、構成比は18.7%となっております。

〔民生費〕

扶助費と特別会計の繰出金に要する経費が主なものであります。扶助費は5億7,709万4,000円となっております。特別会計への繰出金は、国民健康保険特別会計へ1億640万6,000円、介護保険特別会計へ1億5,475万2,000円、後期高齢者医療特別会計へ3,800万円、繰出金合計2億9,915万8,000円となっております。子育て世代元氣ドック事業等助成金120万円、新生児聴覚検査公費負担助成金3万円等で、総額12億6,271万円は、前年度比0.8%、946万9,000円の増で、構成比18.7%となっております。

〔衛生費〕

老朽化が著しいクリーンセンターの延命のための修繕料、一般廃棄物焼却施設整備事業等に要す

る経費は、本年度2019年度は7億2,525万3,000円であります。衛生費の総額は13億3,147万9,000円で、前年度比19.7%、2億1,888万4,000円の増額となり、構成比は19.7%となっております。

〔農林水産業費〕

本町の基幹産業である農業分野に要する経費が主で、糖業振興費3,968万1,000円、園芸振興費3,616万5,000円、畜産振興費1,997万7,000円、水産業振興費479万7,000円等で、総額8億124万2,000円となっております。前年度比7.7%、6,642万5,000円の減額となりました。構成比は11.9%であります。

〔商工費〕

観光振興基本計画に基づき、地域固有の歴史や産業を絡めた体験型観光推進のための経費、地方創生関連事業費として568万4,000円、クルーズ船寄港関連経費、公園管理費等1,696万4,000円で、総額3,822万8,000円は、前年度比15.6%、516万1,000円の増額となりました。構成比は0.6%となっております。

〔土木費〕

喜界島港改修工事2億8,300万円、湾宮戸団地新築工事並びに公営住宅ストック総合改善事業費1億1,650万円等で、総額7億3,773万2,000円は、前年度比2.0%、1,414万9,000円の増となっております。構成比は10.9%であります。

〔消防費〕

常備・非常備消防費、防災災害対策費等、総額1億6,574万1,000円で、前年度比16.8%、3,340万6,000円の減となり、構成比は2.5%であります。

〔教育費〕

町奨学資金貸付金144万円、地方創生関連事業として、喜界町まち・ひと・しごと関連戦略において、国際感覚豊かな人材の育成、児童生徒の学習意欲を引き出し、学習効果を高め、学力向上を目指す。また、家庭の経済的事情にかかわらず安心して学べるよう進路希望できるよう支援するとして、各種検定トライ促進事業費300万円、国公立大学進学応援事業費112万8,000円等であり、調査費等に要する経費は1億2,080万4,000円となっております。教育費総額6億9,138万4,000円で、前年度

比1.3%、888万3,000円の減額となり、構成比は10.2%となっております。

〔公債費〕

総額7億4,067万6,000円を計上しております。元金7億284万4,000円を計上、利子として3,783万2,000円を計上、前年度に比べ2.7%、1,924万3,000円の増額となっており、構成比は11%であります。

〔質疑の主なものについて〕

〔質疑〕

地方消費税交付金について

〔答弁〕

消費税の国税分6.3%と合わせて地方税分1.7%が徴収されており、地方税の2分1が都道府県に、残りの2分の1が人口と従事者数の割合で市町村に分配され、国から都道府県を通じて市町村に交付される。

〔質疑〕

国有提供施設等所在地市町村助成交付金の減について

〔答弁〕

予算全体の減であり、固定資産税にかわる交付金と捉えている。

〔質疑〕

財産管理費の公共施設個別施設計画策定支援業務委託料について

〔答弁〕

全ての公共施設を細分化した長寿命化計画の策定分である。

〔質疑〕

商工費のジオパーク推進事業に伴う監修・計画について

〔答弁〕

金沢学院大学の佐々木先生が地質に関する喜界島の特性、島尻層、喜界島の隆起に伴うサンゴの発達等を研究している、その方に監修を依頼している。31年は町民への周知と小中高生向けの講演会を実施し、喜界島が地理的に世界の中で特異性があることを知ってもらい、行政だけでなく町民の周知を図る。

〔質疑〕

鹿児島・喜界・知名航路運営基金負担金があるが、12市町村全体での負担額は

〔答弁〕

およそ2,000万円ぐらいである。

〔質疑〕

航路・航空路運賃軽減事業負担

金が減になっている理由は

〔答弁〕

人口減による多少の増減はあるが、31年度は小・中・高・大学生と準住民は対象となる予定である。当初予算などで抑えて計上している。保険証等で本人確認をする予定である

〔質疑〕

消防団員の定員は不足していると思うが団員確保の見通しは

〔答弁〕

喜界町は65歳定年としているが、19年から29年の間に定年退職は4名であり、定年延長しても確保は難しい。4月、10月入団の規制を外し、随時募集している。

〔質疑〕

税務課の島外徴収の実績について

〔答弁〕

30年度は大口徴収があり、訪問し留守宅には文書を届け、電話連絡することによって効果がある。

〔質疑〕

営農支援センター苗木果実売払収入の増額について

〔答弁〕

ブロッコリー苗木の増があり、1年で10ヘクタールの伸びがあった。島外へは、パッションフルーツ苗木があり、大崎町へ鹿児島経済連が取りまとめ出荷している

〔質疑〕

加工センターの喜界町アンテナショップ事業推進協議会補助の減額について

〔答弁〕

観光物産協会とアンテナショップの合併により、予算見直しによる削減。

〔質疑〕

糖業振興費の財産処分返還金について

〔答弁〕

デトラッシャーの更新に伴い、既存の施設を処分する場合、補助金適正化法により返還しなければならぬ。歳入は、町、生和糖業、JAの負担金を開発組合が町へ、歳出は町から国への返還である

〔質疑〕

農地費の、ため池維持管理委託料について

〔答弁〕

国からの指導による維持管理委

託料で、ハザードマップ作成箇所を重点的に実施していく。

質疑

障害者福祉費の障害者自立支援給付費増額について

答弁

障がい者対象者の増と就労支援施設「よりより」の新規開設による事業費増である。

質疑

児童福祉総務費の子ども・子育て支援事業計画策定委託金262万5,000円について

答弁

喜界町の意向を反映させ、協議会の意見等を取りまとめることと、調査事業等を業者に依頼し、業者の知見を参考にしながらよりよいものを策定したいという理由により依頼するものである

質疑

幼稚園給食費が小学校給食費より高い理由について

答弁

学校給食費として小中学校は温食代の負担であるが、幼稚園は牛乳代10円が含まれる。

質疑

水産業振興費の喜界町水産業活性化事業補助金の内容について

答弁

漁業者と漁協への補助金で器具の購入補助や、ふるさと納税の返礼品宣伝費用など。

質疑

地域住宅交付金事業費の工事請負費について

答弁

宮戸住宅とストック事業で古い住宅の修繕は荒木第1団地を予定している

質疑

文化財保護費の原材料費300万円について

答弁

中里の防空壕通路コンクリート舗装分である

質疑

保健体育総務費の設計委託料についての今後の計画は

答弁

相撲場を「toto（くじ助成事業）」に申請をするため、場所は役場地内を予定している。

● **議案第2号**

平成31年度喜界町国民健康保険特別会計予算について

町民の医療と健康増進に極めて重要な役割を果たしております。誰もが安心して良質な医療サービスを受けられる制度の安定的運営を行うよう努めるとしております。本年度の予算総額は、前年度に比べ8.7%、8,068万円増の10億564万円の計上となっております。

直診勘定について

これまで同様、毎月第2週と第4週の月2回診察を実施することとしております。本年度の予算額は、前年度に比べ0.4%、9万8,000円増の2,614万6,000円を計上しております。

● **議案第3号**

平成31年度喜界町介護保険特別会計予算について

第7期介護保険事業計画に基づき円滑運営に努めるとしております。本年度は前年度に比べ0.3%、258万円減の9億4,347万9,000円を計上しております。

質疑

一般介護予防事業の専門職報酬の内容は

答弁

新規リハビリテーション活動支援事業報酬費として、作業療法士、理学療法士5,000円と、歯科衛生士3,000円で、年10回分である

● **議案第4号**

平成31年度喜界町後期高齢者医療特別会計予算について

後期高齢者医療保険料の均等割軽減特例の見直しが行われるので、適切に対応するとしております。本年度は前年度に比べ0.9%、86万3,000円増の9,719万3,000円を計上しております。

● **議案第5号**

平成31年度喜界町老人福祉施設事業特別会計予算について

民営化により平成31年度が最終年度となります。本年度は前年度に比べ99.6%、3億8,529万3,000円減の148万6,000円を計上しております。

●議案第6号
喜界町屠畜場事業特別会計予算
について

既存施設の維持管理と食肉の適正な処理に努めるとしております。本年度は前年度に比べ1.8%、2万8,000円減の155万8,000円を計上しております。

●議案第7号
平成31年度喜界町簡易水道事業
特別会計予算について

西部地区簡易水道事業の本管工事が完了し、今後は一般家庭への給水管接続工事を進め、早期に西部地区全戸の供給を目指すとしております。本年度は前年度に比べ11.8%、6,759万7,000円減の5億459万1,000円を計上しております。

【質疑】
施設管理費の委託料500万円について

【答弁】

水道台帳の整備のためにも台帳を整備し、修繕や災害時等の復旧に役立たせるため。川嶺南部地区は完了、東部地区は集落部分については完了、西部地区は60%が未整備である。

【質疑】
管理業務委託料920万円について

【答弁】

電気技能免許取得者1名、経験技能取得中の者1名、経験豊かな技能者1名へ業務委託している。

【質疑】

施設整備の簡易水道整備事業工事費の3,800万円について

【答弁】

給水工事で西部地区の本管から各戸への配水管配管のための工事費である

●議案第8号
平成31年度喜界町農業集落排水
事業特別会計予算について

施設の長寿命化計画を活用し、施設の延命化に努めるとしております。本年度は前年度に比べ21.0%、2,810万3,000円減の1億594万6,000円を計上しております。

【質疑】

施設整備費の工事請負費5,700万円について

【答弁】

施設の長寿命化のため技能強化

事業を実施するための施設の改修費用。

●議案第9号
平成31年度喜界町公共下水道事
業特別会計予算について

引き続き接続率の向上に努め、生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図るとしてあります。本年度は前年度に比べ23.7%、3,928万9,000円増の2億472万9,000円を計上しております。

【質疑】

一般管理費設計委託料5,000万円について

【答弁】

施設の機器類、電機類、構造物等の傷み具合を調査し、どのくらいの改修費用で長寿命化が図れるかを計画立てていくもので、委託先は上下水道専門のコンサルタント会社である

【質疑】

下水道の普及率について

【答弁】

平成29年度公共下水道55%、農業集落排水45.9%である

以上、平成31年度の特別会計予算についても依然として各会計財政状況は厳しく、本年度も一般会計より繰り入れての予算編成となっており、今後も独立採算制を保持しながら健全財政に努めるよう望みます。

一般会計、特別会計いずれも限られた財源であります。施政方針で表明されておりますように、行財政改革プロジェクトチームを柱にさらなる行財政改革を推進し、本町がより一層飛躍できるよう創意工夫による自主自立のまちづくりに気概を持って取り組み、町民の皆様がすばらしい自然の中で心豊かに穏やかに暮らせるよう、最善の努力を期待するところであります。

以上で審査を終了し、予算審査特別委員会に付託されました平成31年度予算は、一般会計予算67億5,360万円、特別会計予算28億9,076万8,000円、総額96億4,436万8,000円の予算については、討論なく、採決の結果、全会一致をもって原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

一般質問 町政のことが聞きたい

第1回定例会で3名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。質問と答弁を要約して紹介いたします。



質問する
良岡 理一郎 議員

老人福祉施設の民営化について

質問

私は平成29年第3回定例会で取り上げて以来、毎回の定例会で、民営化の進め方、巨額な税金を投入した財産の処分方法、今後の財政の棄損リスク、議会軽視・無視などに大きな問題があり、町民の理解は得られないと指摘してきたところである。いよいよ、4月の民間移譲日を間近に控え、その準備状況について伺う。

答弁

老人福祉施設長
3月13日現在、予定者を含む入

質問
現在の特老喜界園の入居者数と入居待機者数について伺う。また、入居者を支える職員体制はどうなっているのか。

居者は70名である。職員体制は56名、うち正規35名、非正規21名（契約9名、パート12名）である。

今後、数名の出向者も予定し、要介護度が高いことも考慮し引き続き職員の募集を進めていく。

サトウキビ被害と対策について

質問

今期、刈残しは起きないか。今回の不作の要因と対策について伺う。万が一に備えた「さとうきび共済」「収入保険」への加入を促進すべきではないか。

答弁

農業振興課長
刈残しは関係者の調整により搬入日を1日延ばすため避けられる見通しである。
今期の見込みは61,500トンで厳しい事態であり、単収減の要因分析を行うなど早急に対策会議を行う。保険、共済については農家の皆さんへ周知を図り加入を促進していきたい。

シカ害獣対策について

質問

最近の駆除数は何頭か。生息地域・生息数の調査結果を伺う。

繁殖スピードが速いのでワナ猟資格者の増員が必要。資格取得の費用の援助が必要ではないか。また、小鹿を飼い始めている人がいる。逃げ出さないよう適切な飼育の周知をしていただきたい。

答弁

農業振興課長
今年度30頭駆除した。（昨年は20頭）生息地域は小野津、志戸桶、最近は百の台周辺にも広がっている。生息数は専門機関の調査で115頭が推測されている。ワナ猟免許については若い方で取得を希望している方もいる。免許取得費用は援助も検討したい。

教職員の労働実態と対策について

質問

今、先生方の長時間労働が社会問題となっている。その是正は先生方の労働条件の改善としてだけで

なく子供たちのすこやかな成長のためにもきわめて大切な喫緊の国家的課題である。

質問

本町における小学校、中学校の実態とその改善策を伺う。

答弁

教育長
全国平均よりは少ないものの残業時間は多い。特徴は小学校より中学校、教諭より教頭の残業時間が多い。今後は正確な労働時間の把握、業務の簡素化や効率化で改善していきたい。また新年度から町教委の研修会、行事を1割減らし、給食に係る業務は学校から行政へ移す計画である。



質問する
榮 哲治 議員

農業振興について

質要

本町は基幹産業である農業の安定的な所得向上を目指して、農業立島を打ち出しているが、本町の農業情勢は農業人口の減少や高齢化の伸展で、大変厳しいときを迎えている。2年連続で台風の影響を受けたサトウキビは、予定の7万6,000トンより1万4,500トン減の6万1,500トンに下方修正になった。年々労力不足から新植面積が減少し、多年株出し面積が増加傾向にあり、大きな反収アップは厳しい状況にある。畜産の子牛価格は依然として高水準で推移している。また、園芸作物では群馬県内で注目を浴び、カボチャや新規作物のトウガラシやプロッコリーが、数年で大幅な実績を伸ばしている。特にプロッコリーは、これからも大きく伸びる要素があり、大変期待されているところである。現町政が掲げる「もうかる農業イコール複合型農業」への転換のあらわれである。本町の農業所得を向上させるためには、基幹作物のサトウキビと園芸、畜産等を組み合わせた複合型農業を強力に推し進める必要がある。それにより、第二の地下ダムの建設が可能になると思われる。

堆肥センター建設について

質問

何年度に建設予定か伺う。

答弁

 農業振興課長

当初平成32年度の事業採択を目指していたが、案内のとおり災害等があり、進捗に影響が出ている状況である。着手にあたっては、建設から運営といった構想を検討しなければいけないため、平成31年度は、関係機関で連携をして検討を重ねて調整を行う。平成33年度の事業採択を目指している。

選果場の問題について

質問

本町は第二の地下ダムを建設するために、園芸振興の計画を大幅にあげている。その中でカボチャが30ヘクタール、あと2年後に120ヘクタールの目標を掲げている、目標達成可能であるか伺う。

答弁

 農業振興課長

その作物ごとの現状と目標については、カボチャについては目標数値からはかなり離れている。今年特に秋カボチャのほうが台風の影響を受け、春カボチャが増えつつある。それから、プロッコリーは増えてきているので、これから地下ダム建設

に向けた営農検討部会の中での目標数値であり、その中でも作物の目標の修正も今後、必要ではないかと思っている。

質問

複合型農業の推進について

答弁

 農業振興課長

複合型農業については、施政方針でもあるが、基幹作物であるサトウキビの8万トンを確保しながら農業生産額を伸ばすためには、畜産並びに園芸作物の推進は必要不可欠であると考えている。農家の高齢化に伴って農家減少、農家人口の減少に歯どめをかける方法の一つとしてもあり、我々限られた職員体制の中で、関係機関と連携をして、新規就農者の確保であったり、巡回指導、講習会等、今行っている施策を継続的に行ってまい

図書館運営について

質要

喜界町図書館は昭和59年に、本を読むことで視野の広い心豊かな人間に成長してほしいという熱い思いを込めて、本町羽里出身の実業家、長島公佑氏が総工費2億1,800万円で建設し、寄贈した。喜界町図書館が喜界町立となっていないのは、寄贈された図書館

である。

開館以来、近代的で豪華な図書館は、子供たちや町民に大変愛され親しまれてきた。

平成22年4月には読書活動推進が高く評価され、優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受け、また、その年は町民1人当たりの貸し出しが9.3冊で、鹿児島県で2位にランクされた。さらに町民の読書の場として、また、生涯学習の拠点としての役割を発揮するために、次の2点について伺う。

質問

図書館の貸し出し履歴を印字できる通帳、読書通帳の導入について伺う。

答弁

 教育長

喜界町図書館の特性、また貴重な文化施設であることは、認識をしている。読書通帳の導入については、郡内の導入状況や運用状況の成果と課題等について、情報収集や分析を行っている。現在、郡内で導入している自治体は、3自治体と把握している。導入している自治体も、まだ期間が浅いこともあり、もう少し推移を検討してまいりたいと考えている。

質問

移動図書館車の導入について伺

う。

答弁 教育長

現在、本町図書館では早町小学校への移動図書や、各保育所及び幼稚園等への貸し出し、団体貸し出し活動を貨物車を活用して支援を実施しているところである。

専用の図書館車ではないために、本の積み下ろしに時間と労力を伴う効率性の問題、あるいは移動図書量の制約など一部の課題はあるが、対象となる幼児及び児童の需要に対しては、おおむね充足しているものと考えている。移動図書館車を導入することによって、業務の簡素化や効率化、あるいは各集落、施設等への、教育施設以外の場所での活用など、読書活動の推進や拡充に一定の成果が見込めるものと考えている。まずは前提となる町民全体の読書活動の実態、ニーズ、こちら側の広報・啓発活動のあり方、供給の問題点、学校図書館との効果的な連携のあり方など、さまざまな観点から学校教育や社会教育における読書活動推進上の現状と課題等に、きめ細かな把握と分析に努めて、読書活動推進全般について検討してまいりたいと考えている。



質問する
幸一美 議員

高年齢者の疾病について

質要

杏林大学医学部眼科教授の永本敏之氏が、学会で発表したもので、中で、失明の原因の約半分が白内障ということである。白内障の罹患頻度は、50代で45%、60代で65%、70代で80%、80代で90%は白内障になるという調査結果である。本町における白内障の罹患者の数の推定は、平成31年2月現在の年齢別人口に当てはめて試算したところ、次のような驚くべき結果が出ている。

50代が843名、45%で379人、60代が1,344名で65%874名、70代で1,002名、80%で802名、80代で753名の90%678名。罹患率が高くなるこの70代80代は、全住民に占める白内障患者は1,480人と推定される。町民6,812人に占める割合が21.7%。10人に2人以上の患者数になり、驚きを隠し切れない思いである。それでは、本町における患者の皆さんの治療の実情がどうかというと、医療機関の

眼科受診は1カ月先までの予約が取れない状況にあり。やむなく奄美市や鹿児島、島外へ出て治療に行くという患者が、今増加している。島外の治療に行く患者が増えている実情を考えると、専門外来の必要性、島外での旅費宿泊費の患者負担の軽減等の対策を含めた課題を洗い出し、早急に議論を重ねていただきたい。

次に、町は平成27年6月から7月にかけてまして、地方版人口ビジョン総合戦略策定に当たりまして、町民の意識調査をしている。その中で、若者男女の住みやすさについての質問に、男女とも、自然に恵まれていくという回答がトップで、男性が68.2%、女性が78.4%に達している反面、医療や福祉制度が充実しているという回答が、それぞれ1.3%と1%と。論を待つまでもなく、少子高齢化対策を進める上で、必要欠くべからざる主要な政策課題である医療福祉制度の充実に取り組んでほしいという、町民の切実な思いの裏返しであり、町政を担う者全てが共有する課題だと考えるところである。そこで、次のことについて伺う。

質問

白内障を含めた高齢者の疾病に対する対策、並びに医療費の助成について、伺う。

答弁 保健福祉課長

疾病対策については、健康増進を目的に策定され、健康きかい21を指針として、本町の目指す姿であり「心豊かに健康で安心して暮らせる町づくり」の実現に向け、特定検診や各種がん検診、集団、個別での保健指導、メタボリックシンドロームや介護予防を目的とした体操教室。重症化する前の早期診療の啓発等、各種予防事業を実施しているところである。しかしながら、人生100年時代といわれる高齢化に伴い、眼科疾患や関節疾患などで病院を受診する高齢者も増えており。そのような中、外海離島である本町では、眼科や整形外科等、専門医が常駐しておらず、予約から診療までに期間を要する場合もある。そのため、島内での診療ができる疾患につきましては、できる限り円滑に診療ができるよう、医療機関との情報交換を通じて、医師の応援診療を要請しているところである。白内障は70代の80%が罹患していると言われ、患者が多いことや疾患を限定すること、また、財源の確保等を勘案いたしますと、医療費の助成につきましましては、今後の検討課題とさせていただきます。

鹿児島県日置市現地調査研修報告

去る1月28日、29日の二日間日置市において次の3点について、一点目、特定健診受診率向上に向けての取り組み、二点目、オリープ特産品加工・販売について、三点目、生ごみの堆肥化について現地調査を行いました。

調査先として日置市を選定したことは、昨年11月に日置市の議員5名の方が本町に来島し、ゴマ栽培などの視察に訪れた際、本町の課題である、ごみ処理問題、なかでも生ごみ処理問題について話題となり、日置市では生ごみを20日で堆肥にすることに成功しており、特定健診の受診率も60%を超える取り組みをしています。とのお話があり、また、取り組みがメディア等に取り上げられ注目を浴びている中であり、本町の課題解決のヒントになると考え、調査先としました。

【日置市の紹介】

- 日置市は、H17年に旧東市来町、伊集院町、日吉町、吹上町が合併し人口約4万8,700人の市で、高齢率は33.51%です。
- 鹿児島市内へ電車で15分、自動車で20分の距離にありベトナムともなっております。
- 日本三大砂丘と言われています、吹上浜や薩摩焼の窯元としても知られており、その他、島津義弘公ゆかりの地「妙円寺」で行われる妙円寺詣(まいり)は鹿児島三大行事としても知られております。

【調査説明①】

特定健診受診率向上の取り組みについて

日置市においても、年々増加する医療費や受診率低下に伴う国からのペナルティを受けないためにも、受診率向上に努めなければならないこと。また日置市は、特定健診受診率がH20年度県内で最下位でありました。

■まず先進地視察を行い、日置市に適した取り組み方を検討しました。熊本健康支援研究所の指導を受け、生活習慣病にかかる高額レセプト(医療機関が健康保険組合に医療費請求するために行った処置や使用した薬剤等を記載した明細書のこと)、健診データ、医療費などさまざまなデータを収集し、特徴をまとめました。

■その結果、年間400万円以上、高額なレセプト対象者のなかで糖尿病、高脂血症の方が全体の66.7%を占め、発症前の健診受診者は0であったことがわかりました。また新規要介護認定者40歳から74歳までの対象者の中で、認定者数は40歳から64歳までが21名、65歳から74歳までが83名ですが、生活習慣病重症化が65歳から74歳まで22%に対し40歳から64歳までが57%であったこともわかりました。

■高額レセプト者が生活習慣病に関係していることがわかり、健診の未受診者がほとんどで保健指導、継続治療が必要であること、また病状の悪化から社会保険から国民健康保険へ加入することに繋がっていました。

■そこで、H24年から3年間特定健診未受診者受診勧奨(かんしょう)プロジェクトチームを結成しました。このチームは、自治会長、保健推進員、それから市役所の全職員で構成し、

基本1回の戸別訪問、留守の場合は電話連絡を行い、健診の継続受診の重要性、健診に係るアンケートや受診可能な医療機関、受診期間、無料で受診できることなどの説明を徹底に行いました。結果、対象者3,247人、内1,276人が受診され受診率は61.5%になりました。

■その他の取り組みとして、H24年10月に健康づくり推進条例の策定、のぼり旗や啓発ポロシャツ作成、30歳代も対象にすることで早期加入の促進などの取り組みも行っております。

■受診率向上の要因として、プロジェクトの効果はもちろん、自治会、地区の受診率を示すことで競争意識が生まれたこと、県の情報システムの支援、医療機関の協力、市長の理解と市職員の協力により地域の気運上昇が要因とお話がありました。

■結果をまとめますとH20年の受診率12.5%からH26年の69.7%に上昇、現在少し減少したもののH29年が64.2%。医療費一人当たりの伸び率もH24年3.5%でしたが、H28年は0.58%に減少しております。

■各疾患の医療費についても、未受診者よりも健診受診者が低い結果もしております。今後の課題としては、問題がないからと受診しなくなるという取り組み、受診率向上で問題が見つかった方(特定保健指導者)の急増のため、限られた医療機関とどのように結びつけるかなどがあげられました。

〔所感〕

本町でも受診率向上に向け、受診率の高い集落に報奨金を出し向上を図れないか検討しております。まずは問題解決に向けて取り組みなければ何も変わりません。そして受診率を向上させるだけではなく、健診での早期発見、そして医療機関での早期治療につなげ国民健康保険の安定運営、なによりも町民の健康、健康寿命の延伸に努めなければならぬと感じました。

〔調査説明②〕

オリーブの加工販売について

■この事業はH24年に鹿児島銀行と包括的業務協力協定を締結し、新たな産業創出として「オリーブの6次産業」があげられ、オリーブ事業を開始しました。H25年には野村グループと業務協力協定を結び、三者で6次産業化に取り組むこととなりました。

■H25年度から本格的に栽培を開始し、日置市の気候に合った品種を選定するため、15品種を植栽しました。H27年度からは地方創世交付金を活用し、市民への苗木購入補助を行い、3年間で4,052本を植栽。目標として、栽培面積50畝、植栽本数2万本とし、普及活動を行っているところです。

■加工販売については、H26年10月に鹿児島銀行や市内企業6社等の出資により「鹿児島オリーブ株式会社」を設立、5人の新規雇用を致しました。「鹿児島オリーブ」は地方創世加速化交付金を活用し、新たな商品開発、ブランド化、販路開拓などオリーブによるまちづくりの推進に取り組んでいます。「鹿児島オリーブ」の協働により、産地化の定着、オリーブ農園や既存の観光農園との広域的な農業観

光の確立による交流人口の増加、移住定住の促進を目的にも取り組んでいます。また、オリーブ専門店をおき、オリーブオイルの販売を開始しました。このオリーブオイルはイタリア・スペインのオリーブ栽培農園と提携した「日置オリーブ農園」で収穫された果実から作られており、オリーブジャパン2016国際オリーブコンテストにおいて、金賞・銀賞を受賞しております。

〔所感〕

実際にオリーブカフェで試飲をしましたが、果実本来の香りがあり、さわやかな味わいがありました。加工工場も視察しましたが、機材が充実に整えられ清潔感がありました。まだまだ生産量が少なくこれからどのように増産していくかが課題であります。今後の活動が楽しみなところ。本町でも6次産業化をどのように進めていくか課題です。日置市のように官民の協力、役割をもつことが大事と考えます。生産者が加工販売を行い6次化に成功している例は現実的に少なく、生産、加工、販売を分担し協力を必要としないかとあらためて感じました。

〔調査説明③〕

生ごみの堆肥化について



■この事業は職員一人の熱い気持ちから始まりました。日置市のH29年度のごみの焼却費用は4億3,600万余りです。「捨てられている生ごみもつたいない」「うまく処理すれば、ゴミも減り処理経費も少なく出来る」「お金を燃やしているのと同じではないか」やるしかない。ここからスタートしました。

■まず職員自ら生ごみを分けて出すのに、どの程度時間と負担がかかるか実際に行いデータを収集し、できる方法を考えたそうです。

■そこですべて市全体で始めるのではなく、取り組んで頂ける市民の方を対象に始めました。強制ではないことです。ゴミステーションに専用のポリバケツを設置し、中に竹チップ酵素を混ぜ臭いがしないようにし、24時間出すことができるようにしました。同時に家庭用油も回収できるように設置しました。

■新聞やテレビで取り上げられ、急速に取り組み世帯が増えました。H24年50世帯から始まり、H27年3,392世帯、H30年では9,764世帯となっております。

■急速に参加世帯が広がったその他の要因に、強制的でないこと、24時間いつでも利用できる事が大きかったそうです。回収事業の効果のメリットとして、「家の中の臭いがなくなった」「燃やせるごみが少なくなり、ゴミ袋の使用量が少なくなった」「子供が興味を持ち家庭での環境学習になっている」「夫婦の会話がなぜか増えた気がする」などの声がありました。デメリットは、「暑い時期にはコバエがタルが発生する」「24時間出せるのはありがたいが、音が気になることがある」などの声がありました。しかし総合的に市民からは、生ごみリサイクルを通じて地域の繋がりが形成されたと、共生、



共働という言葉が形になって行われている成功事例と言われております。

■生ごみの処理についてですが、民間事業者に回収から堆肥化までを委託しております。生ごみは1kg×10円で、各自自治体に上限年間5万円を地域活性化奨励金(コツコツマイレージ)として買い取ります。

■回収は週に2回行い、手作業で異物を除去し、破砕機でペースト状にします。竹チップ酵素に混ぜ、処理促進をするため、生ごみと同時に回収した家庭用油を混ぜます。この油が微生物のエサとなり、堆肥化を促進することになったそうです。

■20日で堆肥になり、仕上がった堆肥は「よかんど」と名付け、地域に無償還元また日置市のブランド堆肥として、販売を検討しているそうです。堆肥の評価は高く、花の栽培には特に効果がでています。

■堆肥工場も視察しましたが、生ごみの臭いがなく、これは竹チップ酵素の力だそうです。それほど大きくない施設でこれだけの規模で、9,700世帯の生ごみが処理されていることに驚きました。

■この事業は生ごみの堆肥化だけが目的だけではなく、二酸化炭素の削減、食品リサイクルへの取り組みにも繋がっています。その効果として、日28年度に比べ、ごみ量が1,121t減り、2,800万円余りの予算を削減、二酸化炭素の削減量は263tになりました。(参考までですが二酸化炭素の1Kgは500mlのペットボトル1,000本分の体積と同じと言われています) 今後は、食品ロスについても検証し防止の対策を考えているそうです。

(まとめ)

今回の日置市、昨年の大崎町での現地調査でも同様に感じたのは、民間と行政の協力体制です。お互いの強みを活かすために、歩み寄り意見を出し合い共に支え合う時代になっています。そしてまず始めること、生ごみリサイクルの事業も10年かけてここまでできたそうです。いつしか活動が当たり前になり空気のようになっていくと思います。そこまで多くの想定内、想定外の失敗があったと思いますが、正しい取り組みであれば、答えは出で来ると感じております。本町でも食品リサイクル、環境保全、予算軽減のためにも、取り組みを早急に考えなければならぬと思います。現在は、ごみのリサイクルは当然の時代と感じました。今回の調査を参考に、できることから一歩を踏み出し、知恵を出し合い、工夫し、失敗を恐れず、町全体で取り組んでいければと思います。

議会のうごき(4月～6月)

- 4月1日 平成31年度開始：新元号制定日
〔令和〕
- 4月11日 議長・事務局長合同会(奄美市)
- 4月24日 議会事務局長研修会(鹿児島市)
- 4月25日 県政説明会(鹿児島市)
- 4月26日 奄美群島開発説明会(鹿児島市)
- 5月1日 令和元年：新元号施行日
- 5月8日 議員研修会(鹿児島市)
- 5月15日 奄美群島議員大会(龍郷町)
- 5月22日 各種協議会総会(奄美市)
- 5月28日 議長・副議長研修会(東京都)
- 6月初旬 令和元年第2回定例会 開会
議案上程・一般質問
- 6月中旬 令和元年第2回定例会
最終本会議(委員長報告他)

◆ 条例等案件報告 ◆

(議長は採決に含まず)

議案	内容	賛成	反対	採決
議案第10号	町長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例について (町長、副町長、教育長の給与を引き続き10%減額するため)	11	0	採択
議案第11号	職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について	11	0	採択
議案第12号	喜界町空き家等対策の推進に関する条例の制定について (空き家等に関する対策を総合的かつ計画的に実施するため)	11	0	採択
議案第13号	喜界町ふるさと寄附条例の一部を改正する条例について (経費等を差し引いた予算額を定めるため)	11	0	採択
議案第14号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の一部変更について	11	0	採択
議案第15号	喜界町空き家利活用事業に関する条例の制定について (空き家を改修し利活用するため)	11	0	採択
議案第16号	空港臨海公園の指定管理者の指定について (指定業者 株式会社 ミネックス)	11	0	採択
議案第17号	喜界町災害による町税減免条例の全部を改正する条例について	11	0	採択
議案第18号	災害被害者等に対する国民健康保険税の減免に関する条例の一部を改正する条例について	11	0	採択
議案第19号	報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例について (指定障害児通所支援事業所〔てくてく教室〕の運営等の評価をするための評価委員報酬)	11	0	採択
同意第1号	副町長の選任について (隈崎 悦男 氏を選任)	11	0	採択

諸般の報告

議長(外内)千里

◆ 1月9日 奄美市
正副議長研修会
「議長・副議長の権限についての「考察」
講師・県市町村議会事務局三原参事

◆ 1月15日 奄美市
公明党奄美ティダ委員会

ティダ委員会の遠山党幹事長代理、河野、秋野参議院議員、公明党、県会議員が出席し意見交換・要望等を語る。当方から、平成30年湾集落で発生した爆弾らしき物の爆発を実例に、補償と今後の調査対処について意見を求めた。町内で発見された爆弾の数、場所、処理方法や投下された数や場所等の詳しい調査が必要とされ、今後の課題であると思われる。

◆ 1月28日～29日 日置市

視察・鹿児島市 町村議会議員研修会
視察は、本町に視察来島された日置市議会議員が『生ごみの処理を見に来てください』との案内を受け、他案件も含め視察を実施した。

町村議会議員研修会 講演2件
「異常気象とその影響」講師・気象予報士 村上 貢司 氏
「AIがもたらす未来」講師・東京大学薬学部教授 池谷 裕二 氏

◆ 1月31日 沖縄名護市名桜大学

奄美・やんばる広域圏交流推進協議会
宜野座村観光拠点施設を視察、全国1,500の道の駅で、沖縄では8番目に指定を受け、現在24名の雇用、年間

50万人の利用を見込む。名護アグリパークを視察、農産物6次産業化支援拠点施設として整備、指定管理者を置き年間来客は30万人の利用を見込む。沖縄振興特別推進交付金活用。奄美・やんばる広域圏交流推進協議会は、会長・渡具知名護市長挨拶、副会長・朝山奄美市長挨拶の後、報告2件、認定1件、議案3件を採択。

◆ 2月8日 鹿児島

平成31年度後期高齢者医療広域連合会第1回定例会全員協議会及び議員研修会
定例会の議事日程と議案の説明 他

◆ 2月21日 奄美市

鹿児島県町村議会議長会第70回定例会
自治功労者表彰、地方創生のさらなる推進、奄美群島振興開発特別措置法の延長に関する特別決議案を採択。他鹿児島県離島振興町村議会議長会定例総会

◆ 2月27日 奄美市

各種協議会
大島郡内市町村会では、任期満了による役員改正があり、議長会会長・福地議長(与論町)、副会長・喜島議長(宇檢村)・外内議長(喜界町)、監事・池山議長(徳之島)・永野議長(和泊町)を選出。町村長議会議長合同会、奄美群島広域事務組合定例会、教育委員会の委員に碓山和宏氏(龍郷町)を承認。

期待しすぎない島ライフのススメ

喜界町荒木 作井 美由紀

「イライラしたり腹が立ったりするのは、期待しているから」

そう言われて、目からウロコが落ちるとはこのことか！と、感心したことがある。個人事業を始めてから、うまくいかなくてイライラすることがたくさん生まれてきた。そのたくさんイライラが、心の持ちようで解消されるようになったきっかけとなる言葉だ。

2016年12月。島のアレコレを知りたくて、喜界島に帰ってきた。社会人になって、人との交流の幅が広がった。地につけて生活をしないとわからないことがたくさんある。生まれ育ったシマでも、社会人になってから気づくことが多い。

2019年に入って、荒木のヘアーサロン川島が二十数年ぶりに復活オープンした。集落放送で宣伝し、藤崎商店にチラシを貼る。宣伝を手伝うことになったからには、シマに帰ってきた理由を知りたい。お店に伺うと、散髪屋敷地内で庭の整備や掃除をしている同じ顔が3つ。川島家は9人兄弟だそう。散髪屋店主のヒゲしか見えていなかった幼少期。ヘアーサロン川島が復活しなければ、私は川島兄弟数人を同一人物だと思っていたことだろう。「やっぱりシマがいい。」60代で帰島し散髪屋を復活させた「ヒゲ川島さん」の言葉には重みが

あった。

小さな発見が、小さな喜びと個人的大発見となり、自分へのモチベーションへとつながる。お金では買えない、自分の中の大きな価値。心の持ちよう、島生活は充実したものになる。

喜界島を離れて生活した3年間、私は、喜界島の魅力を周りに伝えたいと思っていたが、表面的なところしか見えていなかった。「島に貢献したい」と思っていた20代の頃。手に職をつけたわけでもなく、特技や得意分野があるわけでもない私が、島に帰って何ができるのだろうか。ほんやりとした目標を持ちながら、社会人になり島の生活が見えるようになって、「貢献する」なんて偉そうに言ったことを恥ずかしく思う。一人でできる「島への貢献」なんてほとんどないとわかったのは、最近になってからだ。

今の私の将来の夢は「喜界島での生活を楽しくすること」。自分がうれしくなることをしよう。誰かのために何かをしたいなんて、押し付けがましい。自分がやりたいことをしよう。自分の欲しいものを作ろう。そこには、少数派でもきつと共感が生まれる。その共感の音が、島での贅沢のひとつではないだろうか。

みなさんには、将来の夢はありますか？

第2回定例会は、6月上旬を予定しています。

午前9時30分 開会 皆様の傍聴をお待ちしています。
また、喜界町ホームページでは、議会開会中の模様をインターネット中継でご覧いただけます。
(動画配信サイトで「喜界町議会定例会」を検索していただき、録画もご覧いただくことができます。)

お問合せ 喜界町議会事務局 電話 65-1115

ご案内

編集後記

3月議会も終わり、新年度予算が決まり4月からスタートしました。

『平成』を思いおこせば自然災害が多い時代で喜界島でも50年に一度という大雨が2回も続き、今年も昨年の相次ぐ台風の被害を受け製糖期のサトウキビ見込量が7万6千トンに対して6万1千トンという最悪の結果となりました。農家の皆様にとっては、大変な年になるとは思いますが、5月には、新しい元号『令和』に変わります。新たな気持ちで一丸となって、前に進んでいけるように頑張ってください。

- 文責 河上 弘仁
- 喜界町議会広報委員会
- 委員長 生駒 弘
 - 副委員長 河上 弘仁
 - 委員 良岡 理一郎
 - 委員 野間 弘也
 - 委員 峰山 恵喜光
 - 委員 榮 優太